

## 令和6年度第1回朝日町総合教育会議 議事録

日 時 : 令和6年11月12日(火) 13時00分～13時48分

会 場 : さみさと小学校 音楽室

出席者 : 朝日町長 笹原靖直  
教育委員 澤木昇(教育長職務代理者)、  
野坂真澄、勝田民、吉田尚史  
教育長 木村博明  
オブザーバー さみさと小学校長 竹内静、  
あさひ野小学校長 大森祐子、  
朝日中学校長 川田彰、  
富山大学名誉教授 山西潤一、  
富山大学院教授 黒田卓(オンライン)、  
富山大学院教授 林誠一  
事務局 (町長部局)  
総務政策課長 谷口保則、  
住民・子ども課長 加藤優志  
(教育委員会事務局)  
事務局長 水野真也、局長代理(スポーツ係長)若林仁美、  
局長代理(生涯学習係長)水島雅樹、  
学校教育係長 小川奈緒子、主査 松田健吾、  
教育センター指導主事 上嶋早織、  
学校DX戦略推進WGグループ長 教頭 上田勝  
(東部教育事務所)  
所長 能登一昌、指導主事 森川誠

会議次第 : 1 開 会  
2 町長あいさつ  
3 協議事項

- (1) 不登校児童生徒等の支援及び学校における教員の働き方改革の  
推進
- (2) 生成A Iを活用した授業改善（中学校英会話）の実践
- (3) 生成A Iで描く町の未来（小5～小6）の取組事例
- (4) 朝日町での小中学校児童生徒（小1～中3）の情報活用能力の  
育成

#### 4 閉 会

水野局長：ご案内の時間になりましたので、只今から、令和6年度第1回朝日町総合教育会議を開催いたします。はじめに、笹原町長がご挨拶を申し上げます。

笹原町長：みなさん、こんにちは。本日は、オブザーバーとして大変ご多用の中お集まりいただきありがとうございます。また、富山大学教授で朝日町学校DX推進コーディネーターの黒田卓先生はオンラインでの参加になりますのでよろしく願いいたします。同じく、林誠一先生、また、県教育委員会東部教育事務所の能登一昌所長、そして、町内の小中学校の校長先生方にも参加いただいております。さて、町では子育て応援日本一の町を目指し、子育て環境づくり、子育て支援策を充実・推進し、切れ目のないトータルな形での支援に努めているところであります。教育面におきましては、これまで生徒一人一台タブレット端末を活用したICT教育をいち早く導入し、「子供たちの学びを止めない」を合言葉に様々な取組を進めているところであります。また昨年度、文部科学省のリーディングDXスクールの指定を受け、さらに今年度、全国66校の生成AIパイロット校の内、県内でさみさと小学校と朝日中学校が唯一指定され、子供たちの授業での効果的な実践例を横展開するなど、教育DXの充実を図っているところであります。本日は、生成AIを活用した業務改善及び授業改善の一体的取組をテーマに皆様方と協議をおこないたいと思います。この後、事務局から説明がございしますが、皆様方には忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます、簡単ではありますが、開会の挨拶とさせていただきます。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

水野局長：本日はオブザーバーといたしまして、朝日町学校DX推進コーディネーターであります富山大学の先生方に出席をいただいております。改めて、ご紹介を申し上げます。まずは、オンラインでご出席、富山大学大学院黒田卓教授です。同じく富山大学大学院林誠一教授です。また、本日は富山県教育委員会からも出席をいただいておりますので、ご紹介申し上げます。東部教育事務所能登一昌所長です。本日は、よろしくお願いいたします。それでは、次に移ります前に、会議の進行につきましては、総合教育会議設置要綱第4条第3項の規定により、町長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

笹原町長：早速、協議事項に移りたいと思いますが、その前に、今回の議題の趣旨について、木村教育長より説明いただきたいと思いますので、よろしくお願い

いたします。

木村教育長：木村でございます。よろしくお願いいたします。今ほど町長が申されましたとおり、昨年、そして今年と文部科学省のリーディングDXスクール委託事業に付け加えまして、本年度富山県で初めて生成AIのパイロット校にも指定されたところでございます。本年度、特に生成AIのパイロット事業につきましては、産官学連携の取組をしております、つくば市教育委員会それから富山大学それからソフトバンクなどの産官学の連携の取組を今進めているところでありまして。そうした中、この2年間の取組を今日はご紹介したいと思っております。これの1、2番目でございますが、まずは先生方の働き方改革、それから不登校の児童生徒支援についての端末の活用についてまず最初に。次は、生成AIを活用した中学校の英会話授業、さらに、こちらのパネルにもありますように、小学校5・6年生の子供たちが、127名が生成AIを活用して未来の朝日町をみんなで考えそして描くという取組についてのご紹介です。そして最後には、情報活用能力の育成ということで、朝日町が取り組んでいる。そういった流れをこれからご紹介したいと思っております。よろしくお願いいたします。

笹原町長：それでは協議事項についてであります。1番の「不登校児童生徒等支援及び学校における教員の働き方改革の推進」について、事務局から説明いたします。

上田教頭：朝日中学校教頭の上田でございます。ここで昨年度と今年度おこなってきましたICTを活用した不登校支援・働き方改革・業務改善・授業改善等についてスライドにまとめてみましたので、少しお時間をいただきましてご紹介させていただきます。

本日は、リーディングDXスクールのパイロット校として朝日町が取り組んでいることについて授業改善と業務改善の一体的な取組の視点からお話させていただきます。まずはこの動画をご覧ください。昨年度、リーディングDXスクールの指定を受けて成果物として報告した動画の一部でございます。（動画視聴）今ご覧いただきましたように、タブレット端末の先進的な活用を進めている朝日町の小中学校は令和5年度よりリーディングDXの指定を受けました。授業や業務での活用はもちろんですが、不登校への対応としてもタブレット端末を活用してきました。まずはここで、朝日町の不登校対策

と端末の活用についてお話しします。今年度 10 月 31 日に全国の小中学校の不登校児童生徒数が発表されました。34 万 6482 人で、11 年連続増加で過去最多となっております。富山県においても、小中学生の不登校児童生徒は 2,461 人とあり、小学校で初めて 1,000 人を超えました。文部科学省は、令和 5 年に C O C O L O プランを取りまとめました。ここで、朝日町の I C T を活用した不登校支援と C O C O L O プランのつながりについて少し整理してみました。C O C O L O プランには、学びの場を確保するために校内教育支援センターの設置を推進と記されています。朝日町ではすべての小中学校に朝日町校内教育支援センター「ココ・カラ」を設置しました。保健室や相談室にも入ることが難しい児童生徒の利用を想定しています。この部屋では、子供たちは自分のペースで生活や学習をすることができ、オンライン授業等にも参加することができます。先日、B B T で朝日中学校の「ココ・カラ」のことを取材していただきましたので、動画をご覧ください。

(動画視聴)

このような部屋が町内の小中学校に設置されています。また、この C O C O L O プランには、子供の小さな S O S を見逃さず、チーム学校で支援することが示されています。町内では小さな S O S を見逃さないよう、先ほどの動画の中でもありましたが、オンラインによる健康観察を実施し、体の不調だけではなく、心の悩みも相談できる体制を整えております。問題の早期発見を早期解決につなげています。さらに C O C O L O プランでは、学校をみんなが安心して学べる場所にすると記してあります。町でも学校で過ごす時間の中で最も長い授業の充実に向けて、端末や生成 A I を活用して、みんなが活躍できる機会や出番がある授業づくりに取り組んでいます。また、富山県でも、不登校児童生徒支援の手引で関係機関との連携の重要性を示しています。町においても、児童相談所・町当局・町教育支援センターなどと連携を図っています。町教育支援センターでは、子供の学びを保証するためにオンラインで授業に参加できる環境を整えています。さて、今年度の取組についてお話しさせていただきます。今年度は、町内の小中学校が、生成 A I パイロット校に指定されました。町では学校 D X 推進委員会を立ち上げ、アドバイザーとして山西潤一先生、コーディネーターとして黒田卓先生と林誠一先生をお迎えして、お力添えをいただきながら事業を進めてまいりました。生

成A Iパイロット校の指定を受けるにあたり、学校現場で生成A Iをどのように活用するかについて議論を重ねてきました。ここでも業務改善と授業改善の両面から研究に取り組むことにしました。これは、町で作成した生成A Iをパイロット的に活用するための指針であります。我々は文部科学省が示す、生成A Iの利用に関する暫定的なガイドラインに沿いながら、この指針を作成しました。このガイドラインには、年齢制限や保護者の同意等と利用規約の遵守が記されていますが、私たちはこれを1つずつ丁寧にクリアしながら活用を進めているところであります。まずお話しするのは、生成A Iを活用した業務改善についてお話しします。国のガイドラインには、生成A Iの校務での活用例について、4領域を示しています。その4領域とは、「児童生徒の指導」「学校の運営」「学校行事・部活動」「外部対応」です。それぞれの領域について、あくまでたたき台としての利用の活用を示しています。では、今年度、我々がどのように生成A Iを活用して業務改善を図ってきたかについてお話しします。まず、テストの作成のたたき台、あいさつ文の作成のたたき台、これを生成A Iに作成させました。また、学校行事の活用では合唱コンクールの歌唱指導の計画、外部対応では保健だよりの作成のたたき台として、業務の効率化を図りました。生成A Iをよく活用している職員によると、労力と時間の削減に大きくつながっている実感があるということでした。

笹原町長：只今の事務局からの説明に対しまして、まずはオブザーバーの校長先生方より、ご意見をいただきたいと思えます。はじめに、さみさと小学校竹内校長、お願いします。

竹内校長：さみさと小学校竹内です。今ほどの紹介でもありましたように、学校では様々な働き方改革を実際に進めています。たとえば、生成A Iを活用して、おたよりの作成や議事録等の要約をすることで、校務の効率化を図りながら、教員の時間を生み出すということにつなげております。また、本校では朝、家庭から欠席や遅刻の連絡が入った場合、以前ですと紙に書いてそれを手渡すということをしていましたが、所定の紙ではなく、現在ではタブレット端末のTeamsを活用して、連絡が入ったらすぐに打ち込み、端末を見ることで、担任はもちろん、養護教諭、管理職もすぐに「誰が欠席している」、「遅刻してくるのか」、遅刻してきた子が登校してきたらすぐに「何時に登校した」ということも全体で把握するようになっていきます。さらに、先ほどの話にもあ

りましたが、欠席が続いた子供との連絡についても、タブレット端末を活用して連絡をとったり、授業を配信したり、必要なものを連絡したりするということです。それから、特に病気ばかりではないですけれども、登校への不安を感じている子供、そういう子供は担任に直接心配なことを送ってきています。それを担任が見ることで、困ったことに直接答えたり、困り感があることを早期に発見して対応したりすることにつながっており、大変役立っていると思っています。教職員全体で働き方改革につながるような方策をいろいろと試しながら、今後も取り組んでいきたいと考えております。

笹原町長：ありがとうございます。澤木委員お願いします。

澤木委員：もと教員の立場からしますと、先ほどの説明、そして校長先生の説明から先生方の業務については、昔から多種多様で膨大なものがありますが、生成A Iを活用することで十分業務改善が進んでいることがわかりました。今後も生成A Iを活用するなどして、業務の効率化を進めていただき、その分空いた時間を子供たちと接したり関わったりすることで有効に使っていただければと思います。

笹原町長：貴重なご意見ありがとうございます。引き続きまして、生成A Iを活用した先生方の業務効率化につきまして、今後さらに働き方改革につながる取組をお願いしたいと思います。上田先生お願いします。

上田教頭：次は授業の活用について説明します。これは授業改善に生成A Iを活用するためのステップを示すものです。このステップも国のガイドラインと整合性を持たせています。ここで、今年度実際におこなった授業について、まずは、中学校の英語科の授業、そして、小学校での取組についてご紹介します。まずは、朝日中学校での英語科の授業について紹介します。2023年度の全国学力学習状況調査の英語の調査では、「話す」の平均正答率は12.4%であり、話す力の育成は全国的な課題であり、朝日町においても同様の傾向があります。そこで生成A Iを活用することによりその解決を図りました。ガイドラインにも活用が考えられる例として、英会話の相手としての活用がガイドラインにも示されています。7月9日に行われた公開授業では、人型ロボットのペッパーのバーチャル版と生成A Iを連携させて、会話のパターンや速度等を生徒が自分で調整しながら、英会話に取り組む授業を公開しました。それではその時の様子をご覧ください。

(動画視聴)

このようにして生成A Iと英会話で活用することにより、子供たちが意欲をもって学習に臨むことができました。この授業での成果の1つとしてあげられるのは、生徒は自分自身の力に応じて、スピードや内容を変えたり繰り返したりしながら、つまり自己調整をしながら学習を進めることができたということが1つの成果としてあげられます。また、その他の成果として、生成A Iを協働学習のパートナーの1人として活用できたことがあげられます。教師・ネイティブスピーカーあるいは生徒に代わってパートナーとして活用することにより、学びの広がりや深まりが見られました。授業後のアンケートの結果についてです。学習指導要領に示されている指導事項について質問をしたところ、「必要な情報を聞き取ることができるようになった。」「即興で話すことができるようになった。」この回答のA B評価がそれぞれ70%を超えました。生成A Iを活用した英語の授業は、生徒にとって興味関心を高めるだけではなく、話す聞くの向上にもつながった実践だということが明らかになりました。ここまでが中学校の取組についてです。

笹原町長：只今の事務局からの説明に対して、ご意見をいただきたいと思います。オブザーバーであります、朝日中学校川田校長お願いします。

川田校長：朝日中学校の校長の川田です。よろしく申し上げます。この授業は、文部科学省の生成A Iのパイロット校に指定されている県内唯一の町であるからこそ実現できたことと思っています。先ほど説明にあったとおり、単元終了後には70%の生徒が話すこと聞くことの効果を実感していました。現在も中学校2年生の外国語科の授業において、授業の初めにスキルアップ学習として利用したり、家に持ち帰ったタブレットでそれを使って自主学習をしたりといった、継続的な活用を実践しています。今後、中学校3年生にも広げて外国語科でも活用していく形を計画しており、自分のペースで日常的に活用できる個別最適な学びのツールとして学校から継続して提供していきたいと考えています。

笹原町長：ありがとうございました。次に、教育委員の野坂委員お願いします。

野坂委員：私の娘も中学校2年生で、この公開授業を見せていただいたが、子供たちが自分のわかる速さ、声の高さ、スピードに合わせて調節して意欲的に取り組んでいたのがとても印象的でした。校長先生がおっしゃったように、日常

づかいもできるということで日ごろ持ち帰っているタブレットでたくさんたくさん練習して、今後の学びをもっともっと深めていただけたらいいと思っています。

笹原町長：ありがとうございます。続きまして、生成A Iの活用が授業改善や学力向上に資するような取組をお願いしたいと思っております。それでは、3番の「生成A Iで描く町の未来の取組事例」について、事務局から説明をお願いします。

上田教頭：皆さんの横にあるのが、朝日町の100年年表でございます。今年、朝日町は町制施行70周年の年であります。そこで、70周年記念事業として、「みんなで作る朝日町100年年表」という事業を実施しました。過去70年間の写真を集め、70年の年表を作成し、その後の未来の30年間を、生成A Iを使って、未来の朝日町を描き、合計で100年の年表を作りました。この事業は、小学校5・6年生を対象に、2日間にわたって行いました。1日目は、過去の朝日町を学び、未来はどのようになって欲しいかを考えました。2日目は、生成A Iとはどのようなものを学び、1日目に考えた将来の朝日町を生成A Iを使って描きました。Adobe Fireflyという生成A Iを使用しました。年齢制限がなく、小中高校では無料で使用することができます。また、著作権にも配慮しているところや、生成した画像の一部を柔軟に加工できる特徴があります。この画像は実際に児童がプロンプトを入力している画面です。少し動画がありますので、見てください。

(動画視聴)

こういったものの一部が100年年表に取り込まれています。次の取組です。これも新聞で紹介されましたが、国語科で生成A Iを活用し、俳句を作るという授業をおこなった時の風景です。小学校においてもこれまでお話ししたように、生成A Iを授業に組み込みながら、教育効果が高まるよう研究を進めているところです。以上で小学校の取組の紹介を終わります。

笹原町長：ありがとうございました。只今の事務局からの説明にご意見をいただきましたと思います。オブザーバーであります、あさひ野小学校の大森校長、お願いします。

大森校長：この授業を行うにあたって、こういった授業をすると話をした時から、子供たちは、大変楽しみにしてこの授業を受けることができました。生成A I

がどういうものなのか、どういうことに気を付けなければならないのかという  
ことを丁寧に学んだ後、朝日町の未来について画像生成AIを使ってイメ  
ージを膨らませるといふ授業でした。最初に子供たちがプロンプトを入力し  
て出てきた画像を見て、そのまま受け入れるのではなく、これは自分のイメ  
ージと少し違うというふうに考えて、じゃあ次にどういう言葉を入力すれば  
自分のイメージに近くなるのかということをよく考えながら、学習を進めて  
いました。思考力・想像力を働かせながら、学習を進めることができたと思  
います。また、一人でやるのではなくて、「これが出てきたんだけどここにこう  
いうものがあつたらいいよね」といふような話を友達としながら、対話をし  
て学習を進めていました。こういった授業は普通の授業で生成AIを使わな  
くともやっていることなのですが、生成AIが入ることによって、よりそう  
いったことが深まっていくということを実感することができる授業でした。  
とても楽しい授業でした。

笹原町長：ありがとうございます。それでは、教育委員の勝田委員からお願いした  
と思います。

勝田委員：校長先生のお話にもありましたように、子供たちが楽しみながら生成AI  
の特徴や使い方を、身をもって体験している姿が非常に見てとれました。子  
供たちが試行錯誤して教えあつたり協力し合つて学び合っているという姿が、  
非常に浮かんできます。なによりも子供たちの集中力が、途中で途切れるこ  
とがなかったのではないかと思うのですが、その辺りはいかがだったでしょ  
うか。

大森校長：集中力はよく続きました。普通の授業よりも続いていたような気がします。  
どの子も一生懸命でした。

笹原町長：ありがとうございます。それでは、生成AIを使うにあたっては、著作  
権侵害のリスクあるいはフェイク画像の拡散、人の名誉を傷つけるような可  
能性があるわけですが、しっかりと生成AIの仕組みや正しい使い方につい  
て学ぶことが重要だと思えます。それでは次に4番の「朝日町での小中学校  
児童生徒の情報活用能力の育成」について、事務局から説明をお願いします。

上田教頭：本日参考資料として配布しています新聞の見出しにもありますが、情報活  
用能力の育成というのが大きなキーワードになってきます。学習指導要領の  
総則の中には、情報活用能力を学習の基盤となる資質・能力として位置付け

ています。文部科学省の資料をもとに、朝日町でも身に付けたい情報活用能力をより具体的にどの発達段階で身に付けるべきかを示した体系表を作成しました。基本的な操作・プログラミング等ありますが、その中にも朝日町独自の生成A I とのかかわりを盛り込みながら、小中学校9年間で身に付けたい資質・能力を系統的に配置しました。また、小中学校すべての段階で情報チェックシートと情報活用能力学習計画表を作成しました。情報チェックシートについては、体系表に位置付けた資質能力が確実に身についたかどうかを教職員や子供が自分で確認できるようチェック項目を設けてあります。また、学習計画表を示し教職員がどの学年でどの教科で何を身に付けたいのかというものを明らかにしました。以上で、情報活用能力育成についてのお話を終わります。

笹原町長：ありがとうございます。只今の事務局からの説明に対しまして、長年教職をしておられ、先月新たに教育委員になられました吉田委員の方からご意見を賜りたいと思います。

吉田委員：古い話をさせていただきますが、教育現場にコンピューターが入ってきたころ、当時、「読み書きそろばん」ではなく、「読み書きコンピューター」だということがすごく叫ばれまして、キーワードにコンピューターリテラシーが挙げられました。リテラシーというのは当時何を指していたかというところ、コンピューターを使いこなす力と、これは正しい情報なのか間違った情報なのか、その真偽を見極める力を付けていくことでありました。今の子供たちを見ていますとコンピューターや、デジタル機器を使う能力は当時の子供たちと比べると本当に格段の違いがあります。低学年であろうと、タブレットを道具として使いこなす能力が身に付いてきていると感じております。ただ一方で、ネット上の危険性や、情報モラルについては、学校ではしっかり指導をされているのですが、やはり機会を捉えて今後一層指導していく必要があることではないかなというふうに感じております。加えて、今、生成A I が話題になっていて、学校でも今後生成A I が入ってくることが十分予想されます。先日、内外教育に、「生成A I は包丁のようなもの、非常に便利ではあるが、半面、危険性も伴う」ということが書いてありました。子供にとっては正しい使い方をしながら、この生成A I に向き合っていくことが必要だと思います。前向きに使うことが大切であり、使わないとその便利さも気付か

ないし、危険性も分からないと思います。なので、発達段階に即して正しい使い方を身に付け朝日町が立てられた情報活用能力の育成を推進していただければうれしいなと感じております。

笹原町長：大変貴重なご意見、ありがとうございます。それでは、本日はリーディングDXスクール事業のコーディネーターでもあります富山大学大学院の黒田教授と林教授にもご参加・ご臨席いただいております。せっかくの機会ですので、大学院の先生方からもご意見をいただきたいと思います。はじめに、情報活用能力といったことを専門とされておられます林教授より情報活用能力の重要性についてご意見やアドバイスをお願いいたします。

林教授：今ほど説明がありましたように、現行の学習指導要領は、情報活用能力をすごく打ち出しています。はじめて出てきた言葉です。学校現場には、STEAM教育、教科横断型とかSDGsも含めて、いろんな言葉が飛び交うのですけれども、私、前の学習指導要領を作ったときに文部科学省にいたのでその時のことをよく知っていて、今回の学習指導要領はそれに非常によく進めている。この取組を朝日町さんが率先をしてさまざまな角度からチャレンジ精神を含めて、全国に先駆けて取り組んでいることを私はとても素晴らしいなど、逆に今おこっている学習指導要領ですすめられていることを先取りして進められている。今ほどもありましたように、触ってみないとわからないところ、取り組んでみないとわからないところがたくさんあって、最近はよく学校現場に行くことがあるのですけれども、実は子供たちあんまり抵抗なくいろいろやっていて、それを見守る保護者や大人たちが非常に心配をし、という部分もある。まずは、先生方含め大人が、情報活用能力をしっかり踏まえて、子供たちを見守って、育ててあげる。これから支えるのは、社会を支えるのは今生きてる子供たちで、たぶん我々が過ごしてきた学校教育とは違った能力を求められる時代になっていくと思うのです。我々はたぶん上から言われたことをきちんと正しく早くできればそれでよかった。ただし、これからの時代を生きていく子供たちはたぶんそうじゃなくて、正しく早く多数決で決まることは、たぶんコンピューターがやってくれる。ではなくて、全く新しい少数意見を出す力であるとか、たくさんの情報から自分で考えて発信する力、海外の子供たちとどんどん交流をしようと思うので、こんなこと言わなくてもわかるだろうみたいな話はこれまで通じたかもしれませんが、じ

やなくて自分の考えをまったく思想の違う相手、宗教も考え方も生活様式も違う相手に、これはこうだからこうなんだよといったことを伝える力は、これから間違いなく大切で、その時にこういった生成A Iも含めた情報活用能力の育成というのは欠かせないというふうに私は思っています。そういった取組を先んじて行っていて、敬意を表します。これからますます学びながら一緒に僕自身も勉強していきたい。

笹原町長：林先生、ありがとうございます。またそれも頑張ってもらいたいと思っています。最後に、本日オンラインで参加いただいております黒田教授お願いいたします。

黒田教授：よろしくお願いいたします。今、皆さんのお話と取組をお伺いして、林先生もおっしゃったが、チャレンジングにいろんなことに取り組まれているなと思いました。今年度から取り組まれている生成A Iの活用というところでも、今まだ、生成A Iは始まったばかりの段階でその中で制約がかかるわけですが、それをクリアしながら、取り組まれているなというふうに思いました。今、学んでいる子供たちのことを考えてみると、彼・彼女らが社会に出るころにはもっともっとA Iが進んでいく。A Iだけでなく、いろんな形で社会が変わっていく可能性をもっているかと思います。今までは、都市部でのいろんな発展・発達と、地方との格差みたいなものがあったわけですが、こういったネット上ではそういった点の地理的な問題がほぼ無くてですね、どこであっても同じような、都市部の子供たちよりもひょっとしたら、地方の子供たちの方がいろんな取組みをしていくという可能性だって考えられるんじゃないかな。まあ、そういったようなことを踏まえて考えると、早いうちから正しい使い方とか、生成A Iは今、ハルシネーションという、いわゆる間違いをおこすところの話が話題になっていますけれども、そういったようなものに対して、実際に事実かどうかを確認するというファクトチェックが非常に重要だと、今日の授業の中でもそういった内容がしっかり入れられているんですけども、そういったようなことをしっかり体験させていきながら、どのように活用していけばいいかということをしっかり考えて自分で使っていけるようになっていけばいいのかな。A Iの発展というのは、本当にこれからさらに加速していくんじゃないかなと思います。今、現在の生成A Iでもかなりのことができ、ちょっとびっくりという人もい

らっしゃるかもしれませんが、一般的に今言われているのは、AとIの間にNをいれたANI、NはNarrow狭いという意味ですね。ANIの今、使われているのはANI。これがもう少しすると、ある程度いろんなことに対応できるようになっていくと、汎用的になっていくということで、AIという段階をむかえる。さらに、これが本当におとずれるかどうか、たぶん人間が希望するかというところにもあると思いますが、人間を超えていく、その場合には、Sが入り、ASIとなって、Super Intelligence というふうにかわっていくのでないかというふうなことが言われています。そういう社会を作っていく、そこを生きていくのは今の子供たちなわけですから、教える側、教員側もそういうことを少し想定しながら、考えていくことも必要になってくるんじゃないかなと思います。朝日町さんの取組に期待しております。よろしく申し上げます。

笹原町長:ありがとうございました。貴重なたくさんのご意見ありがとうございました。

町としても若い世代に生かした教育に引き続きやりますが、皆様方のお力を借りてますます推進していきたいと思っております。本日の協議、誠にありがとうございました。このメンバーで一番アナログな私の司会進行でありましたが、司会進行を事務局にお渡しします。よろしく願いいたします。

水野局長:ありがとうございました。おかげをもちまして、本日子定しておりました協議事項はすべて終了いたしました。次に、その他に移りますけれども、皆様のお手元には参考資料をお渡ししてあります。また、空いた時間に見ただけであればと思います。そして、この後、行われます公開授業の学習指導案のほうを参考配布しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。次にこの後の日程について、簡単にご案内申し上げます。午後1時50分より3年生と6年生の2つの公開授業が行われます。両方とも生成AIを活用した授業となりますが、どちらも「授業改善」といった活用ではなく、「情報活用能力の育成」を目的とした授業となります。3年生は2階、6年生は1階で授業を行いますけれども、3年生の方は授業開始5分で生成AIを活用しはじめます。6年生の方は授業開始15分後くらいから生成AIを活用しはじめますので、先に3年生の教室からご案内したいと思います。それでは、これもちまして、令和6年度第1回朝日町総合教育会議を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。